

フジサンケイ ビジネスアイ 掲載：2008.1.7

ECO で楽しむ暮らし

薪で感じる火の美しさ・暖かさ

生活の楽しみを増し、満足度を高めながら、環境への悪影響を減らすことは可能か。このコラムでは筆者自身の実践例を引用しながら、そのような暮らし方のヒントを提供したい。

寒い冬の暮らしには暖かさが何より嬉しい。暖房器具を使えば暖かくなるが、エネルギー多消費は家計に響くばかりか、地球温暖化を加速する。まず必要なのは、住まいを熱ロスが少ない形にすることだが、これは次回に。

今回紹介するのは、庭木の剪定と薪ストーブのエコな組み合わせである。

剪定を2年続けて頼まなかったので、何回にも分け大量の枝を自分で切った。普通なら焼却場行きの“緑のゴミ”になる。本来は価値あるものを、化石燃料を使って処分するとは、何とも無駄の多い話ではないか。

それを避けたくて、私は剪定枝を手作業で始末している。つまり枝と木の葉に分け、燃料と肥料に変える作業である。ノコと剪定鋏を使って切り分ける。サクサクとノコを引き、パチパチと枝を切る手応えが気持ちよい。

葉は大きな袋にまとめておき、借りている畑に撒いて土に戻す。今の庭にはコンポストにする空間的余裕がない。本来なら自宅に菜園があって、生ゴミとともに土の栄養にしたいところ。

枝は太さ別に分け薪にする。太いのは自宅の薪ストーブに見合う長さに切って積み上げる。今切っているのは次の冬のため。細いものはダンボール箱に詰める。これは数カ月で乾く。

「薪を燃やせば二酸化炭素（CO₂）が出るじゃないか」という意見を聞く。確かにその通りなのだが、バイオマス（生物起源の燃料）からのCO₂は

温室効果ガスとみなされない。

現世代の植物が太陽エネルギーを使って空気中のCO₂を吸収し、固定化したものだから、植物が成長する限り、大気中のCO₂濃度は変わらない。化石燃料の代わりにバイオマスを使えば、その分だけ温室効果ガスの排出が減る。

友人の中には処理に困る木を持って来てくれる人がいる。団地などで捨てるものも加え、積み上げた薪はかなりの量になる 写真。



冬の夜の大きな楽しみは、薪ストーブで火を燃やすことだ。小枝に点火し、順に太いものへと火をリレーする。燃焼が安定すれば煙はほとんど出ない。薪ストーブは単なる暖房器具ではなく、心に安らぎを与える装置でもある。

薪の準備には手間がかかるが、日課になればけっこう楽しい。乾燥に1年待ってご褒美がもらえる。それは美しい炎と火の暖かさ、それと温暖化防止につながっていると思う満足感だろう。

(大阪ガスエネルギー・文化研究所研究主幹 濱恵介)

濱 恵介（はま・けいすけ）

1968年に東京大学工学部都市工学科卒業後、住宅公団で住宅団地の計画・設計に携わる。98年から大阪ガス エネルギー・文化研究所に勤務。エコロジカルな住まいと暮らし方を研究・発信している。著書に「わが家をエコ住宅に（学芸出版社）がある。